

## 「沖縄を覚えて祈る日」の創設について

† 主の平和

第87（定期）教区会において、教区運営会議より「沖縄の日」を継続する件が提出され、審議が行われましたが、信施金の用途に関する明確な記述がなく、またこれまで献げられた「沖縄の日」のための資金が2014年度末で約46万円の繰り越しがある等の理由により、提案趣旨には多くの理解と賛同が得られたものの、議案の細部の修正案が2件提出され、原案を含むすべての案が過半数を得ることができず、否決されました。

しかしながら、1994年の第62（定期）教区会決議から20年以上にわたり継続してきた「沖縄の日」は、沖縄教区および管区以外では、沖縄のことを特に取り上げた他教区には見られない中部教区独自の大切な取り組みでもあり、上記のような形で「沖縄の日」を継続できないことは、非常に残念なことです。

そこで常置委員会では、社会宣教部より提案された「沖縄を覚えて祈る日」を創設することを承認し、**<6月26日（日）聖霊降臨後第6主日>**（沖縄慰霊の日に近い主日）を、沖縄の現実を覚えて祈りを献げる日に定めることといたしました。各教会におかれましては、ぜひご理解をいただき、戦後70年以上経過した今も、在日米軍基地が集中し、平和・人権・環境など様々な問題に直面している沖縄のことを覚え、祈りをお献げくださいますようお願いいたします。

尚、社会宣教部作成の祈祷文を以下に掲載しますので、各教会のご判断で必要に応じてお用ください。

## 沖縄を覚えて

へいわ みなもと しゅ おきなわ おぼ いの  
平和の源である主よ、沖縄のことを覚えて祈ります。

おきなわ ねんまえ おきなわせん きおく とつぜんおも だ  
沖縄には、70年前のむごたらしい沖縄戦の記憶を突然思い出すことで、  
くる  
苦しんでいる おじい・おばあ があります。

ぐんじきち そんざい そうおん れつあく じゅうかんきょう せいかつ ひとびと  
軍事基地の存在により、騒音など劣悪な住環境で生活する人々がいます。

ちゅうりゅう ぐんじん ぐんぞく しんしん きずつ ひとびと  
駐留する軍人・軍属によって心身を傷付けられている人々がいます。

むかんしん むりかい ほんど つごう かちかん おつ ひっし あらが ひとびと  
無関心や無理解、本土の都合や価値観の押し付けに、必死に抗う人々がいます。

ひとびと くる と のぞ おきなわ しん へいわ  
これらの人々の苦しみが取り除かれ、沖縄に真の平和がもたらされますように。

せいじ しゃかい せきん ひとびと よわ たちば ひとびと こえ みみ かたむ  
また、政治や社会に責任のある人々が、弱い立場にある人々の声に耳を傾け、

しゅ へいわ じつげん  
主の平和が実現されますように。

わたしたちがいつも沖縄のことを覚え続け、主の栄光を現すことができます

ように。この祈りを弱い人々に寄り添い続け、人々への深い愛を示された

しゅ へいわ じつげん  
主イエス・キリストのみ名によってお献げいたします。

アーメン